

## 発見！！クワの実

～学びを生み出す子ども達～

校長 二瓶 光代

運動会前日の朝、登校してすぐ私を訪ねて来た子ども達がありました。

「クワの実を見つけました。」

手に、濃い紫色とこれから熟す白い2種類のクワの実を持っていました。実はつぶれることなく形を保っていたことから、子ども達が大切に持ってきたことが分かりました。子ども達は、「紹介したいから（朝会続き話コーナーに）展示してほしい。」という願いを伝えるにきたのです。去年、蚕について学習していた学年の子ども達です。蚕が食欲旺盛な時には、子ども達は葉を集めることに集中し、秋になりJA四季彩館で売られていたクワの実ジャム（1）を味わうことを通して実が食べられることを知りました。今もなお保管しているジャムを冷蔵庫から出すと子ども達は、「ジャムのラベルの実の方が、粒がたくさんある。」ということに気付きました。すばらしい観察力です。そして、「自分が見つけたこの実は、熊の谷公園のクワの木で、すぐそばに車が通っているところだから粒が少ないのか？」などと違いのわけを考え始めました。わけを見出そうとする主体的なその姿に感動しました。

去年この子ども達の学級では「まちのクワの木マップ」作りにも取り組んでいました。私は作成中のマップを見たことがありました。その後のマップがどうなったか気になっていたので聞いてみると、「そういえば、どこにあるんだろう？調べて、中休みにまた来ます。」と、急いで教室に戻って行きました。子ども達は、マップのことを友達に聞いて回り、中休みに報告に来てくれました。それだけでなく、「マップに付け足しをしたい。クワの木や実についてもっと調べたい。」と話していました。「自分たちは、お互いの家が近いから集まって調べられる。」と、意欲にあふれる表情でした。一つ上の学年となった今、学級全体で再度取り組むのは難しいかもしれませんが、しかし自ら追究したいという意欲を持ったこと自体に大きな価値があると思います。まとめたものができたら、今年の3年生に活用してもらい、さらには、「みのたな博物館」に展示することもできるでしょう。ご存じの通り、養蚕はこのまちで盛んに行われてきた生産活動であり、「みのたな博物館」にも、たくさんの養蚕関係の道具や資料があります。そこに、子ども達が作ったマップや本を加え、子ども参画型の資料室にすることは「主体的に学ぶ態度」を育てる上でも重要なことだと思っています。

（1）クワの実ジャムは、この地域の方が作ったもの。ジャムの存在も地域の方から教えて頂きました。

